

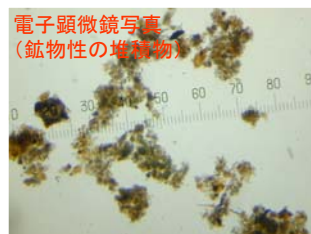
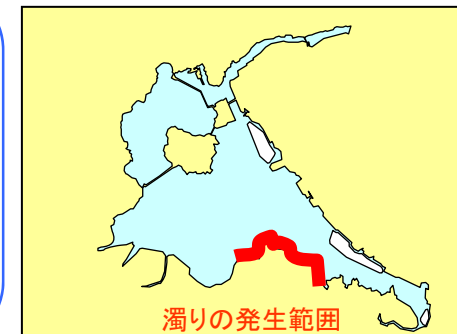
中海出張所便り

第20号（3月18日）

カナケによる濁りの発生について

平成23年2月末から3月初旬にかけて、中海南岸の安来市荒島地区～安来港沿岸で中海の水面が茶褐色に濁る現象が見られました。発見当時は赤潮の発生が原因と思われましたが、採水して電子顕微鏡で確認したところ、鉱物性の「カナケ」が原因の濁りであることが判りました。

※『カナケ（金気）』は土壤に含まれる鉄分が溶け出し、バクテリアによって酸化されて起こる自然現象で、水質に与える影響は少ないとされています。



カナケは、水が茶褐色に濁った状態になるだけでなく、油膜のような状態になることもあります。近年、水質事故報告の中には、油ではなく『カナケ』が原因で通報を受けている事例も少なくありません。カナケか油膜かの簡単な判断方法は、以下の方法があります。

- ①においを嗅いでみる。(カナケであれば鉄サビのにおいがします。)
- ②棒でつついてみる。(カナケであれば、膜がバラバラになり元のような膜状に戻りませんが、油膜であればすぐに元に戻ります。)

～担当者からのひとこと～

現在、カナケによる水面の濁りは消失しておりますが、今後は春先に向けて赤潮の発生が予想されます。水質の異状による中海の環境への影響等も注視しながら河川管理に努めていきたいと思っております。また、水面・水質の異状に気付かれた場合は、お気軽に中海出張所(Tel.0854-23-7433)までご一報下さい。